

## 突然出会う

### 1. ヒミズ

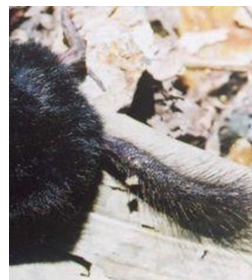
遊歩道を歩いていると時々写真のような黒いネズミが転がっています。しかし、よく見ると尾に長くかたい毛がまばらに生えています。ネズミの尾のように毛が短く、先細りになっていません。口先が尖っているところは似ています。正体はヒミズというモグラです。

モグラの仲間は哺乳類の中でも原始的なグループです。食虫類という仲間で、ヒトやサルの祖先です。地下生活に合わせた形に変化して、寸胴の体形と滑らかな毛、シャベル状の肢、退化し皮膚下にある目になったのです。名前の「日不見(日見ず)」も地下生活に特化した生活を表します。前肢のシャベルはモグラほど発達していないため、落ち葉の下など地下浅いところにトンネルを掘って、ミミズや昆虫等を捕食しています。

一般に、動物の死体が自然界に転がっていて人の目に付くことは稀です。カラスやシデムシ(死体を食べる甲虫)など多くの動物の餌となって、他の命を支えることに役立っているのですが、ヒミズの死体にはよく出会います。何故でしょうか。出会ったら匂いを嗅いでみましょう。嫌われるようです。

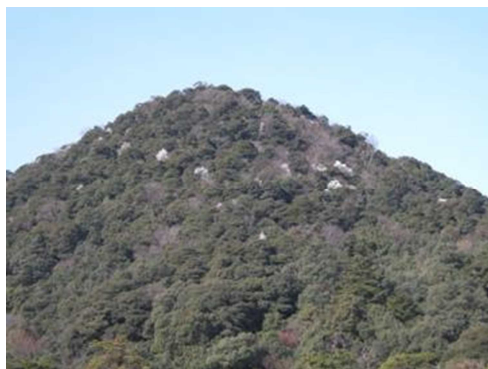


ヒミズ



ヒミズの尾

### 2. タムシバ



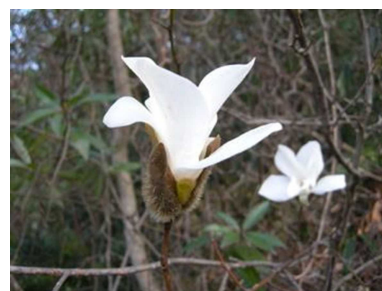
タムシバの花が咲く打吹山

ソメイヨシノより早いヤマザクラが開花するころ、打吹山に白いものがポツと現れます。倉吉でコブシと呼んでいるタムシバが咲いたのです。花の時期しか存在がわかりません。あっけなく花が散ってしまうと周りの緑に溶け込み、平凡な広葉は気付かないで通り過ぎてしまいます。遠景では白い塊に見えているのですが、

近くで見ると、枝先に疎らに花が付いています。残雪期の県境の1,000m台の尾根筋には、枝が詰まって花が密生する灌木状のタムシバがあります。

山陽側が主産地の本当のコブシは、植栽されたものが遊歩道沿い等にありますが、開花期が10日ばかり遅く、花の根元に緑の葉が付いていることで区別できます。

種名のタムシバは「噛む柴(かむしば)」で、甘みがあるということですが、甘い菓子に慣れてしまった身には感じられません。



タムシバの花



コブシの花